高つきレモン
by 栗山
2026年
10月1日



レモンの木は夏場（初夏から秋にかけて）に アゲハチョウの幼虫やハモグリガなどの 害虫がとてもつきやすい木です

高温・多湿の環境は害虫の発生や繁殖に最適です。
早期発見と対策で、大切なレモンの木を守りましょう。



なぜ夏場につきやすいの？

- 気温が高く、害虫の活動が活発になる
- 新芽や若い葉が多く、栄養が豊富で食べごろしに
- 風通しや湿度の影響で、発生が一気に広がる



特に注意したい害虫

アゲハチョウの幼虫（アゲハの仲間）



特徴：　新芽や葉を食べ進み、葉もよく見られる
発生時期：5月～10月
対策：　見つけ次第取り除く、薬剤散布（BT剤など）

ハモグリガ（エカキムシ）



特徴：　葉の内部を食べ進み、白い筋ができて葉が枯れることも
発生時期：5月～10月
対策：　被害葉を取り除き、薬剤散布（浸透移行性の薬剤）

アブラムシ



特徴：　新芽やつぼみに群生し、樹液を吸う
発生時期：4月～10月
対策：　牛乳スプレーや薬剤散布、天敵の活用

コナジラミ



特徴：　葉の裏に白い小さな虫がつき、すす病の原因にもなる
発生時期：5月～10月
対策：　黄色粘着トラップや薬剤散布

ミカンサビダニ（ハダニの一種）



特徴：　葉の裏に寄生し、葉がかすれたように白っぽくなる
発生時期：5月～10月（特に高温・乾燥時）
対策：　葉水で湿度を保つ、薬剤散布

害虫がつくとどうなるの？

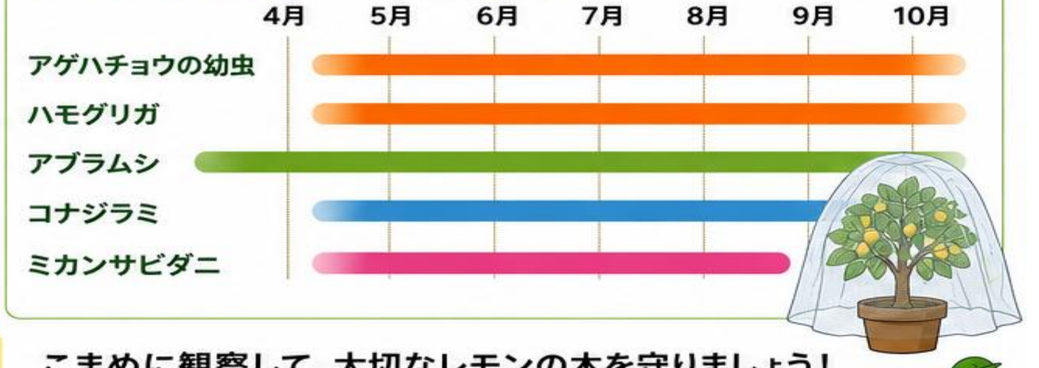
- 葉が食べられて光合成ができなくなる
- 生育が悪くなり、花や実のつきが悪くなる
- すす病などの二次被害を招く
- 放置すると木が弱り、枯れる原因にも！



効果的な予防と対策

- 定期的に葉の裏や新芽をチェックする
- 見つけ次第、手で取るか剪定して除去する
- 風通しを良くし、湿気をためない
- 必要に応じて薬剤を適切に使用する（収穫前は使用基準を確認）
- 清潔な環境を保ち、落ち葉や枯れ葉を片付ける
- **虫がつく夏芽、秋芽の剪定（間引き）を行う**
  新芽を適度に剪定し、害虫の発生源を減らす
- **防虫ネットで覆う**
  新芽が出る時期からネットをかけて成虫の産卵を防ぐ

害虫の発生しやすい時期（目安）



早めの発見と対策が、元気なレモンの木を育てる一番のコツです！

こまめに観察して、大切なレモンの木を守りましょう！

レモンの苗木にミカンハモグリガがついた！

早期発見と正しい対策で、葉の食害を防ぎ、元気な苗木を育てましょう！

ミカンハモグリガ（エカキムシ）
学名：Phyllocnistis citrella
分類：チョウ目ハモグリガ科



1 見分け方（特徴と被害の症状）

成虫（体長5~6mm）
小さな蛾で、体は細長く、褐黄色～褐色のまだら模様。静止時は屋根形にとまる。



幼虫（約1.5~2mm）
体は半透明のクリーム色～緑白色で、頭部は黒い。



被害の症状（エカキ症状）
葉の中を幼虫が潜って食害し、白い筋状の跡（迷路状の食害痕）が残る。ひどくなると葉が白くなり、落葉する。





どんな植物に発生する？
レモン、ミカン、ユズなどのカンキツ類をはじめ、ゲッキツ、ハナユ、カラタチなどミカン科の植物に発生します。

2 発生のサイクル（年に数回発生）



ポイント
・1回の卵は数個、1雌あたり数十～数百個産卵します。
・気温が高いほど発生が多く、乾燥時に増えやすいです。

3 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 被害葉を見つけたらすぐに除去
白い筋（エカキ）がある葉は、幼虫が中にいるので、見つけ次第摘み取り、ビニール袋に入れて処分する。
（放置すると成虫が羽化して増える）



② 強い水流で洗い流す（補助的な効果）
葉の裏にいる卵や成虫を水で洗い流す。定期的に葉の裏にもシャワーをかけると発生を抑えられる。



③ 薬剤散布（幼虫に効果的）
薬剤は「葉の中に入る前の幼虫（ふ化直後）」に散布するのが最も効果的。7~10日おきにローテーション散布を行う。



④ 物理的な防除（低密度時に有効）
幼虫がまだ小さいうちなら、親指と人差し指で葉を軽くつまみ、つぶすようにして駆除する方法も有効。



4 おすすめ薬剤（効果と特徴）

薬剤名	系統・特徴	効果の対象	使用の目安
アファーム乳剤（エマメクチン安息香酸塩）	食害された葉に浸透し、幼虫の神経に作用して食害を止めて死に至らせる。浸透移行性あり。	幼虫に効果大（成虫・卵には効果が弱い）	7~10日おきに散布（収穫前日数に注意）
ベニカX ファインスプレー	浸透移行性と速効性を併せ持ち、幅広い害虫に効果がある。	幼虫・成虫に効果あり	7~10日おきに散布
オルトラン粒剤（アセフェート）	根から吸収され、葉の中の幼虫にも移行して効果を発揮する。	幼虫に効果あり（予防的効果）	植え付け時や春・秋に株元へ（規定量を守る）

薬剤使用の注意点
・必ずラベルの使用方法・希釈倍数・使用時期を守りましょう。
・高温時（30℃以上）の散布は薬害の原因になることがあります。
・同じ系統の薬剤の連続使用は、抵抗性がつく恐れがあるので避ける。
・収穫前日数や回数に注意し、記載内容を必ず確認しましょう。



5 発生時期と防除のポイント

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
発生量	少ない				多い（5~10月に多発）						少ない	
防除のポイント	越冬成虫の確認 春先（3~4月）は新芽や葉の裏をよく観察する。			ふ化直後の幼虫期に薬剤散布するのが最も効果的！		被害葉の除去と薬剤のローテーション散布を継続する。				発生が少なくなっても油断せず、定期的に観察を続ける。		

防除のポイントまとめ
- ☑ 新芽が出る時期から注意して観察する。
- ☑ 被害葉は早めに除去し、増殖源を絶つ。
- ☑ 幼虫のふ化直後に薬剤を散布する（7~10日おき）。
- ☑ 複数の薬剤をローテーションして使い、抵抗性を防ぐ。
- ☑ 風通しを良くし、過湿や乾燥を避けて、樹を健全に育てる。



6 定期的な観察方法

週に1~2回を目安に、葉の裏と新芽を中心に観察しましょう。



7 発生を抑えるためのその他の対策

環境管理
・風通しを良くする（込み合った枝は剪定）
・乾燥しすぎないように、適度な水やりを行う
・肥料の与えすぎを避け、徒長を防ぐ
（やわらかい新芽は食害を受けやすい）



天敵の活用（自然の力も味方に）
ミカンハモグリガには、寄生バチ（コマユバチ類）やクモ、テントウムシ類などの天敵がいます。
農薬の使いすぎを避け、天敵がすみやすい環境を保つことも大切です。


寄生バチ（コマユバチ類）


クモ類


テントウムシ類

まとめ

ミカンハモグリガは、**早期発見・早期対策**がいちばんのポイントです！
定期的な観察と、被害葉の除去＋適切な薬剤散布で、レモンの苗木をしっかり守りましょう。

覚えておきたい一言メモ
「白い筋を見つけたら、すぐ取る・すぐ散布！」
これが、被害を広げない一番のコツです。

レモンの苗木に アゲハの幼虫 がついた！ 詳細な説明と駆除方法

アゲハの幼虫はレモンの葉を食べて大きくなります。早期発見と正しい対策で、苗木を守りましょう！



アゲハ（ナミアゲハ）とは？
体長：成虫で約60〜80mm
時期：4〜10月ごろまで発生
（地域により異なる）
卵から成虫になるまで約1か月

1 見分け方（幼虫の特徴と探し方）

卵	幼虫（成長段階）			
直径約1mmの黄色い粒。	1齢（〜5mm）	2〜3齢（10〜20mm）	4〜5齢（20〜40mm）	葉の裏側や新芽の先にいることが多い。
	黒い鳥のフンのような葉が一緒についている。	体に白や黄色の模様が出てくる。		大きくなると緑色で、目玉模様が目立つ。



被害の特徴

- 葉を食べて、スケルトン状の食害や、葉脈だけを残して食べる。
- 新芽や若葉が特に狙われやすい。
- 食害が進むと、苗木の生育が悪くなる。



2 アゲハの生活サイクル



ポイント

- 気温が高いほど成長が早く、春〜秋にかけて何度も発生する。
- 放置すると一度に多くの葉を食べ尽くされる。

3 駆除方法（総合的な対策がおすすめ）

① 見つけ次第、手で取り除く（最も確実で安全）

幼虫や卵を見つけたら、すぐに手で取り除きます。ピンセットを使うと、取りやすく安全です。



ビニール袋に入れて処分する。

② 強い水流で洗い流す（小さな幼虫に有効）

ホースやシャワーで葉の裏側を中心に水を強くかけ、幼虫を落とします。



③ 薬剤散布（発生が多いとき）

薬剤は幼虫の若齢期（1〜3齢）に散布すると効果が高いです。
成長した幼虫には効果が下がるため、早期発見が重要です。



④ 剪定・薬の管理

食害がひどい葉や枝は剪定し、風通しを良くして再発を防ぎます。



4 おすすめ薬剤と特徴

薬剤名	系統・特徴	効果の対象	使用の目安
ベニカX ファインスプレー	速効性と残効性を兼ね備えた家庭園芸用殺虫剤。幅広い害虫に効果あり。	幼虫（若齢〜中齢）に効果大	7〜10日に1回散布
オルトラン粒剤	浸透移行性。根から吸収され、葉や茎に行き渡り、食害害虫を防除。	幼虫に効果あり（予防効果）	植え付け時や春・秋に株元へ（定植後も可）
サンケイデナポン乳剤	有機リン系殺虫剤。効果が高く、幅広い害虫に効果。	幼虫に効果あり	7〜10日に1回散布

薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光下での散布は薬害の原因になります。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、輪番で使うと効果が長持ちします。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数を確認しましょう。



5 発生時期と防除カレンダー（目安）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生状況	少ない			発生が増える（春型）			多い（夏〜秋に多発）				少ない	
防除のポイント	越冬場所の卵やさなぎを探して除去			卵・若齢幼虫を見つけたら早めに駆除を開始			定期的に葉をチェックし、発生初期に薬剤や物理的防除				剪定・清掃で越冬対策	

※地域や気温により時期は前後します。

6 防除のポイントまとめ

- ☑ 毎日または2〜3日に1回、葉の裏側まで観察する。
- ☑ 卵や小さな幼虫のうちに取り除くのが最も効果的。
- ☑ 幼虫の成長に合わせて、物理的防除と薬剤散布を使い分ける。
- ☑ 混み合った枝は剪定し、風通しと日当たりを良くする。
- ☑ 被害葉や剪定した枝は放置せず、袋に入れて処分する。



チェックするポイント

- 葉の裏に卵や幼虫はいないか？
- 黒いフン（鳥のフンのような粒）はないか？
- 新芽や若葉が食べられていないか？
- 食害が急に広がっていないか？



7 発生を抑えるためのその他の対策

環境管理



日当たりと風通しを良くして、苗木を健康に保つ。

寄せつけない工夫



マリーゴールドなどのコンパニオンプランツが効果的。

定期的な観察



定期的な観察と早期対応が、大きな被害を防ぐカギ！

8 天敵の活用（自然の力）

アゲハの幼虫には、鳥や寄生バチ、カマキリ、テントウムシなどの天敵がいます。



寄生バチ（幼虫に産卵）　カマメリ　テントウムシ

まとめ

アゲハの幼虫はレモンの葉をよく食べますが、卵や若齢幼虫のうちに見つけて対処すれば、苗木への被害を最小限に抑えられます。
「早期発見・こまめな観察・物理的防除＋薬剤防除・環境管理」の組み合わせで、元気なレモンの苗木を育てましょう！

覚えておきたい一言メモ
「小さいうちに見つけて取る！」が一番の近道！
毎日の観察が、健康な苗木を守ります。

レモンの苗木にアブラムシがついた！詳細な説明と駆除方法

アブラムシは新芽や葉の裏に群がり、苗木の生育を妨げます。早期発見と正しい対策で、元気なレモンを育てましょう！

アブラムシはとても増えやすい！
1匹のメスが1日に数匹〜数十匹を出産します。
放っておくと短期間で大量発生します。

1 アブラムシの特徴と見分け方

体長：1〜3mm程度の小さな虫。色は緑・黒・黄・茶など。
新芽や若い葉、つぼみ、茎に群がって吸汁します。

モモアカアブラムシ（緑色型）	ワタアブラムシ（黒色型）	ミカンサビアブラムシ（茶色型）
		

被害の症状

- 新芽や葉が縮れたり、ねじれたりする
- 葉の色が薄くなり、生育が遅れる
- 甘い排泄物（蜜露）により、すす病が発生する
- ウイルス病を媒介することがある


葉の縮れ


すす病の発生


樹勢の低下

2 生活サイクル（1年を通して発生）



3 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 見つけ次第、手で落とす・ふき取る

少数なら、指やティッシュでつぶすか、濡らした布でふき取ります。



② 強い水流で洗い流す （効果大）

ホースやシャワーで葉の裏や新芽を中心にしっかり洗い流します。



③ 牛乳スプレー （手作り）

牛乳：水＝1：10の割合で薄め、スプレーします。
アブラムシの気門をふさぎ駆除します。



④ 天敵を利用する

テントウムシやクサカゲロウの幼虫がアブラムシを食べてくれます。


ナナホシテントウ （成虫・幼虫）


クサカゲロウ （幼虫）

⑤ 剪定・新芽の管理

被害のひどい新芽や葉は切り取り、
密集した枝葉は風通しを良くします。



4 おすすめの薬剤と使い方

薬剤名	特徴	対象	使用方法・時期
ベニカX ネクストスプレー 	速効性があり、広範囲のアブラムシに効果。浸透移行性もある。	成虫・幼虫	発生初期〜多発時に散布。7〜10日に1回。
オルトラン粒剤 	浸透移行性。根から吸収され、長く効果が続く。	成虫・幼虫	植え付け時や発生初期に株元にまくだけ。効果は約1か月。
マラソン乳剤 	浸透移行性が高く、効果が長く続く。	成虫・幼虫	発生初期〜多発時に散布。7〜10日に1回。

薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光下での散布は薬害の原因になります。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、輪番で使うと効果が長持ちします。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数を確認しましょう。



5 発生時期と防除カレンダー（目安）

	1月	2月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生の目安	少ない			増え始める		多発（特に5〜10月）				減少	
防除のポイント	越冬卵の確認 早期発見に剪める			新芽の発生に注意し、早めの防除		定期的に観察し、早めに駆除 強い水流で洗い流す				被害葉の除去 越冬準備	

※気温が20℃以上になると急増します。特に梅雨〜夏は注意！

防除のポイントまとめ

- ☑ 新芽や葉の裏をこまめに観察する。
- ☑ 発生初期に防除すると、少ない薬剤で効果的。
- ☑ 強い水流での洗浄は、最も安全で効果的。
- ☑ 風通しを良くし、過湿を避けて株を健康に保つ。
- ☑ 天敵の利用や牛乳スプレーも併用すると◎。

チェックするポイント

- 葉の裏に小さな虫が集まっていないか？
- 新芽やつぼみが縮れていないか？
- 葉がベタベタしていないか？（蜜露）
- 黒いすす（すす病）が出ていないか？



6 発生を抑えるための予防対策

風通しを良くする
混み合った枝は剪定し、風と光を通す。



過湿を避ける
水のやりすぎは避け、根を健康に保つ。



栄養バランス
窒素の与えすぎは、アブラムシを呼び寄せます。バランスよく 施肥。



定期的な観察
週に1〜2回は新芽や葉の裏をチェック。



7 天敵の活用（自然の力を味方に）

アブラムシの天敵を庭に呼び込み、維持しましょう。


テントウムシ（成虫・幼虫）


クサカゲロウ（幼虫）


ヒラタアブの幼虫（アブラムシを捕食）

- 多様な植物（ハーブや草花）を植えると、天敵が集まりやすくなります。
- 農薬の使いすぎは天敵も減らすので注意しましょう。

まとめ

アブラムシは早期発見・早期対策が何より大切です！
「観察＋物理的防除＋薬剤防除＋環境管理」で、レモンの苗木をしっかり守りましょう！

覚えておきたい一言メモ
「小さな虫でも、油断すると大繁殖！」
こまめな観察と、早めの対策が美味しいレモンを育てます。

レモンの苗木に チュウゴクアミガサハゴロモ がついた!

早期発見と正しい対策で、樹液の吸汁被害やすす病を防ぎ、元気な苗木を育てましょう！

チュウゴクアミガサハゴロモとは？

体長7〜10mmの白い小さな虫。
幼虫はワックス（白い綿状のロウ物質）でおおわれ、アミガサ（網笠）のように見えるためこの名がついています。



1 見分け方（特徴と被害の症状）

成虫（見つけにくい）

体長7〜10mm。白い翅をもつ。
8〜10月ごろ、株のまわりを
梶子うち飛ぶ。



幼虫（よく見られる時期：5〜9月）

体長5〜7mm。白いワックスでおおわれ、
アミガサ状になる。
枝や葉の裏、幹のしぼりに多くつく。



被害の特徴

- 新芽や枝が弱り、葉がしおれたり、落葉することがある。
- 排泄物（甘露）により、すす病が発生し光合成を妨げる。
- 多発すると枝が枯れ込むこともある。



2 発生のサイクル（年1回発生）



ポイント

- 1年に1回発生し、複数世代はありません。
- 卵で越冬するため、冬の剪定や清掃がとても重要です。

3 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 見つけ次第、物理的に除去する（最優先）

幼虫は布や歯ブラシなどでこすり落とすか、枝ごと切り取り処分します。
数が少ないうちは、これが最も効果的です。



② 強い水流で洗い流す（補助的な効果）

ホースの水を葉裏や枝にしっかり当てて洗い流します。
定期的に行うと、発生を抑えられます。



③ 薬剤散布（幼虫の発生期に効果的）

幼虫が発生する5〜9月に、薬剤を散布します。
成虫には効果が低いため、幼虫期を狙うことが重要です。



④ 剪定・風通しの改善

混み合った枝を剪定し、風通しを良くして、
多発を防ぎます。



4 おすすめ薬剤と特徴

薬剤名	系統・特徴	効果の対象	使用の目安
ベニカX ファインスプレー	浸透移行性と接触作用。殺虫効果が高く、残効性もある。	幼虫に効果大（成虫はやや弱い）	7〜10日おきに散布
オルトラン粒剤	浸透移行性。根から吸収され、吸汁害虫に効果を発揮。	幼虫に効果あり（予防効果）	植え付け時や春・秋に株元へ上に混ぜ込む
マラソン乳剤	接触作用が高く、速効性がある。幼虫に効果的。	幼虫に効果あり	7〜10日おきに散布

薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍数・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光下での散布は薬害の用因に。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、輪番で使うと効果が長持ちします。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数も確認しましょう。



5 発生時期と防除カレンダー（目安）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生状況	卵で越冬			幼虫の発生・加害期（特に6〜8月に多発）					成虫の発生・産卵期			卵で越冬
防除のポイント	剪定・清掃で卵を減らす			ふ化直後の幼虫を早期に発見・除去！		薬剤散布と洗浄を定期的に行う			成虫の飛来に注意し、産卵前に対策を		剪定・清掃を徹底する	

防除のポイントまとめ

- ☑ 冬の剪定と卵の除去が最も重要です。
- ☑ 幼虫の発生期（5〜9月）は、こまめに観察し早期に対処。
- ☑ 物理的防除（こすり落とし・水洗い）と薬剤を組み合わせる。
- ☑ すす病の発生を防ぐため、排泄物の除去と風通しの改善を。
- ☑ 苗木を健全に保つため、水やり・肥料・日当たりに注意する。



チェックするポイント

- 枝のしぼり目、剪定跡の周り
- 葉裏の主脈や葉柄付近
- 内側の混み合った枝



6 定期的な観察・確認方法

春から秋にかけて、週1回を目安に観察しましょう。



観察のポイント

- 白いアミガサ状の幼虫はいないか？
- 葉や枝に黒いすす汚れはないか？
- 排泄物（甘露）が落ちていないか？

7 発生を抑えるためのその他の対策

環境管理

風通しを良くし、日当たりを確保することで、害虫の発生を抑えられます。



天敵の活用（自然の力）

クモ類やテントウムシ類、カマキリなどが幼虫を捕食します。



苗の健康管理

健康な苗は害虫に強くなります。適切な水やり・肥料管理を心がけましょう。



まとめ

チュウゴクアミガサハゴロモは、卵で越冬し春〜夏に幼虫が樹液を吸って被害を与えます。
早期発見と、物理的防除＋薬剤防除＋環境改善の組み合わせで、レモンの苗木をしっかり守りましょう！

覚えておきたい一言メモ

「白いアミガサを見つけたら、放置せずにすぐ対策！」
早めの一手が、苗木の元気を守ります。



レモンの苗木にハダニがついた！ 詳細な説明と駆除方法

ハダニはとても小さく、乾燥した環境を好みます。早期発見と正しい対策で、苗木を守りましょう！

ハダニはとても小さい害虫！
体長0.3～0.5mm程度で、葉の裏に潜み、吸汁して葉を弱らせます。

1 ハダニの特徴と見分け方

特徴
- 体長：0.3～0.5mm程度（肉眼では見えにくい）
- 色：赤色、橙色、黄緑色など種類がある
- 葉の裏に寄生し、汁を吸って生育を阻害する
- 高温・乾燥を好み、増殖が早い



ナミハダニ（成虫）

成虫・幼虫・卵の比較



成虫（メス）	成虫（オス）	幼虫	卵
（約0.4mm）	（約0.3mm）	（約0.2mm）	（約0.1mm）

被害の症状
- 葉の表面に白い斑点やかすり状の模様ができる
- 葉がかすれ、黄色くなり落葉する
- 光合成が低下し、苗の生育が悪くなる
- 発生が進むと、葉全体が白っぽくなり枯れる


葉のかすれ・黄変・落葉

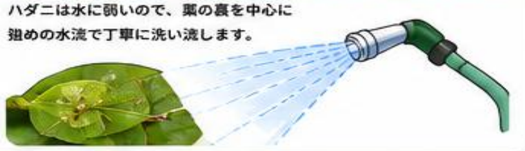
2 生活サイクル（高温・乾燥で急増！）



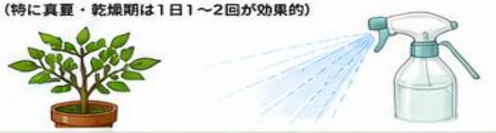
ポイント
- 気温25～30℃、乾燥条件で爆発的に増える。
- 梅雨明け～秋にかけて特に注意（ハウス・室内でも発生）。
- 卵で越冬する種類もあり、翌年の発生源になる。

3 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 葉の裏にしっかり水をかけて洗い流す（まずはこれ！）
ハダニは水に弱いので、葉の裏を中心に強めの水流で丁寧に洗い流します。



② 葉水（霧吹き）で湿度を上げる
乾燥を嫌うので、葉水をこまめに行い、湿度を保ちます。
（特に真夏・乾燥期は1日1～2回が効果的）



③ 天敵を利用する（自然の力でやさしく防除）
ハダニの天敵（カブリダニ類）を使うと、薬剤を減らして防除できます。
■代表的な天敵
- ミヤコカブリダニ
- チリカブリダニ


ミヤコカブリダニ

④ 剪定・葉の管理
被害のひどい葉は早めに取り除き、風通しを良くして、ハダニが増えにくい環境を作ります。



4 おすすめの薬剤と使い方

薬剤名	特徴	使用方法・時期
ダニ太郎フロアブル	ハダニに特化した薬剤で、効果が高い。卵・幼虫・成虫に効果。	発生初期～7～10日に1回散布。
マイトコーネフロアブル	幅広いハダニ類に効果。浸透移行性があり、残効性もある。	発生初期～7～10日に1回散布。
コテツフロアブル	気門封鎖作用で窒息させる。有機JAS適合で使いやすい。	発生初期～5～7日に1回散布。

薬剤使用の注意点
- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光での散布は薬害の原因になります。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行いましょう。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数を確認しましょう。

5 発生時期と防除カレンダー（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生しやすさ	少ない			増え始める		多発（特に7～9月）				やや少なくなる		
防除のポイント	越冬卵の密度を下げる 早期発見に努める			薬水・予防散布で増殖を防ぐ		高温・乾燥で急増！ こまめな防除が必須				秋も注意して継続防除		

※ハウス栽培や室内管理では年間を通して発生することがあります。

防除のポイントまとめ
- ☑ 葉の裏をこまめに観察し、早期発見する。
- ☑ 葉水で湿度を保ち、乾燥を防ぐ。
- ☑ 水洗いで物理的に数を減らす。
- ☑ 天敵や薬剤を上手に組み合わせる。
- ☑ 風通しを良くし、混み合った枝葉を整理する。
- ☑ 定期的に予防散布を行い、発生を最小限にする。

チェックするポイント
葉の裏に白い点やクモの巣状の糸は出ていませんか？



6 発生を抑えるための予防対策

湿度を保つ


葉水をこまめに行い、乾燥を防ぐ。

風通しを良くする


混み合った枝葉は剪定し、風通しを良くする。

水やりの工夫
乾燥させすぎないが、過湿にも注意する。


乾燥させすぎないが、過湿にも注意する。

定期的に観察
葉の裏をこまめにチェックする。



7 天敵の活用（自然の力）

ハダニの味方！天敵を上手に利用しましょう。

ミヤコカブリダニ


ハダニ成虫・幼虫・卵を食べる万能タイプ。

チリカブリダニ


活動が活発で、広範囲に効果を発揮。

ケナガカブリダニ


高温期に強く、ハダニをしっかり捕食。

※使用方法は商品ラベルを参照し、適切に散布してください。

まとめ
ハダニは「乾燥」と「高温」で急増します。早期発見・葉水・水洗い・天敵・薬剤の組み合わせで、レモンの苗木をしっかり守りましょう！

覚えておきたい一言メモ
「葉の裏を見れば、ハダニがわかる！ 乾燥させないことが最大の予防！」
こまめな観察と対策で、元気なレモンを育てましょう。

高つきレモン
by 栗山

レモンの苗木にカイガラムシがついた！ 詳細な説明と駆除方法

カイガラムシは吸汁して樹勢を弱らせ、すす病を誘発します。早期発見と正しい対策で、大切なレモンの苗木を守りましょう！

カイガラムシは一度つくと手強い害虫！
- 成虫は動かず、薬剤が効きにくい
- 数が増えると駆除が大変になる
- 早期発見・早期防除がポイント！

1 カイガラムシとは？

カイガラムシは、植物の茎や枝、葉に寄生して樹液を吸う害虫です。
成虫は殻（介殻）に守られて動きが遅く、薬剤が効きにくいのが特徴です。

レモンでよく見られる種類



ミカンコナカイガラムシ（白く丸い殻）／ミカンタクカイガラムシ（白い綿状のうろ物質）／ルビーロウカイガラムシ（赤褐色の丸い殻）／ミカンネコカイガラムシ（褐色の小さな殻）

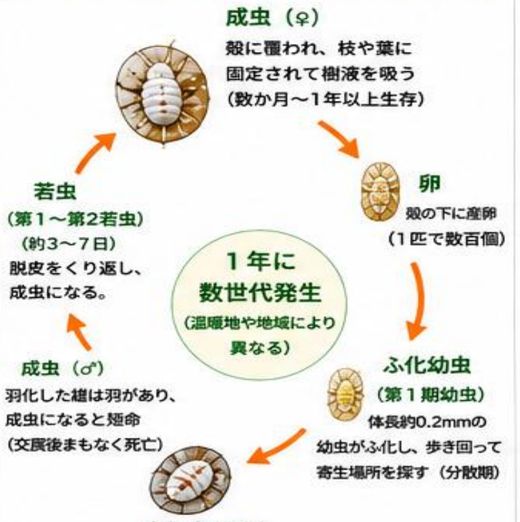
2 被害の症状

- 樹液を吸われることで、葉や枝が弱り、成長が悪くなります。
- 排泄物（甘露）により、すす病が発生し、葉や果実が黒く汚れます。
- 発生が多いと、最悪の場合は枯れてしまうこともあります。



枝や葉に寄生／すす病の発生／葉の黄変・落葉／樹勢の低下

3 生活サイクル（例：ミカンコナカイガラムシ）



ポイント

- 幼虫の分散時期（春〜秋）が防除の最適期です。
- 成虫になると殻に守られ、薬剤が効きにくくなります。

4 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 見つけ次第、手でこすり落とす

歯ブラシや布でこすり落とすか、竹べらなどで削り取ります。少数のうちに行うのが効果的です。



② 剪定して取り除く

寄生が多い枝や葉は、見つけ次第切り取り、処分します。



③ 強い水流で洗い落とす

ホースやシャワーで枝や葉をよく洗い流します。
特に葉の裏や枝の付け根が効果的です。



④ 薬剤散布（幼虫の分散期に重点的に）

カイガラムシの幼虫が動き回る時期に薬剤散布を行うと効果が高まります。



5 おすすめの薬剤と使い方

薬剤名	特徴	使用方法・時期
マシン油乳剤（スプレータイプ）	成虫の殻を溶かして窒息させる。越冬成虫に効果大。	発生期〜（特に冬期〜春先）7〜10日に1回散布
オルトラン粒剤	浸透移行性で、吸汁性害虫に効果。長く効果が持続。	植え付け時や発生初期に株元に施用（効果は約1か月）
スミチオン乳剤	接触・浸透効果があり、広範囲の害虫に有効。	幼虫の分散期（春〜秋）に7〜10日に1回散布
ベニカX ネクストスプレー	速効性があり、幅広い害虫に効果。	発生初期〜多発時に散布

薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず確認しましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光下での散布は薬害の原因になります。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、輪番で使うと効果が長持ちします。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数を確認しましょう。



6 発生時期と防除カレンダー（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
カイガラムシの発生	越冬成虫		幼虫の分散期（防除の最適期）						成虫の定着期		
防除のポイント	越冬成虫の除去・マシン油乳剤散布		幼虫の分散期に薬剤散布を行う		発生状況を確認し、薬剤防除				発芽前に枝の清掃・剪定を行う		

7 見分け方のポイント

- 枝や葉に白・茶色・赤褐色の小さな丸い殻や綿状のものがついている。
- こすっても簡単には取れない（簡単に取れるのはアブラムシなど）。
- 葉がベタつき、すす病が発生していることが多い。
- 数が多いと枝全体が白っぽく見えることもある。



よく似た害虫との違い

害虫名	特徴	違いのポイント
カイガラムシ	殻に覆われ、動かない	こすっても取れにくい
アブラムシ	柔らかく、群がって動く	指で簡単につぶれる
コナジラミ	小さく白い虫が飛ぶ	葉を揺すると飛び立つ
ハダニ	非常に小さく、葉裏に多い	クモの巣状の糸が見える

8 予防のポイント

風通しと日当たりを良くする

密植を避け、剪定して風通しを確保。



定期的に観察する

葉の裏や枝の付け根をこまめにチェック。



剪定と清掃

不要な枝を切り、落ち葉や枯れ葉は処分する。



株元を清潔に保つ

雑草や枯れ葉を取り除き、清潔な環境を保つ。



まとめ



- ✅ カイガラムシは早期発見が何より大切！
- ✅ 幼虫の分散期に防除することが効果的です。
- ✅ 手作業＋薬剤＋環境管理の組み合わせでしっかり防除しましょう。
- ✅ 定期的な観察と予防で、元気なレモンの苗木を育てましょう！



レモンの苗木にカミキリムシがついた！ 詳細な説明と駆除方法

カミキリムシは幼虫が幹や枝の中を食い進み、木を弱らせたり枯らしてしまいます。早期発見と正しい対策で、大切な苗木を守りましょう！

被害が進むと手遅れに！
成虫は1か所にとどまりません。
見つけたら早めに対処しましょう。



1 カミキリムシの種類と特徴（レモンで見られる主な種類）

ゴマダラカミキリ
（体長20～35mm）

- 黒い体に白い斑点
- 触角は体より長い
- サクラやモモ、ウメ、ミカン類などに寄生



キボシカミキリ
（体長15～25mm）

- 黒い体に黄色の斑紋
- 触角は体の1.5～2倍
- カンキツ類に寄生することがある



見分け方のポイント

- 体が細長く、触角がとても長いのが特徴。
- 成虫は初夏～夏にかけて活動し、幹や枝にとまっていることが多い。

2 生活サイクル（年1回～2回発生）



ポイント

- 幼虫期間が長く、木の中で加害するため見つけにくい。
- 成虫は夜行性で、昼間は樹皮の割れ目などに潜んでいる。

3 被害の症状

- ☑ 幹や枝に小さな穴（脱出孔）が開く（直径5～10mm程度）



- ☑ 木くずやフラス（フンと木くずの混合物）が出る



- ☑ 樹皮の下が空洞になり、木が弱る・枯れる
- ☑ 葉がしおれたり、枝が枯れ込むことがある

放置すると…
幹の内部がスカスカになり、風で折れたり、最悪の場合枯れてしまいます。



① 成虫の捕殺（最も確実で安全）

- 成虫を見つけたら、捕まえて踏みつぶすか、ビニール袋に入れて処分する。



② 幼虫の駆除（根の被害対策）

- フラスが出ている穴に針金や割り箸を差し込み、幼虫を突き刺して駆除する。
- 薬剤を注入して殺虫する方法も有効。



③ 薬剤散布（成虫の発生期に効果的）

- 成虫の活動期（5～9月頃）に、幹や枝に薬剤を散布して寄せ付けない。

④ 剪定・被害部の除去

- 被害が大きい枝は、根元から剪定し、焼却または処分する。



⑤ 樹勢の回復

- 水やり・肥料管理を適切に行い、木を元気にして被害を受けにくくする。



4 おすすめの薬剤と使い方

薬剤名	対象	特徴	使用方法・時期
ベニカX ネクストスプレー	成虫	速効性があり、幅広い害虫に効果。忌避効果もある。	発生初期～成虫発生期に散布 7～10日に1回
オルトラン粒剤	幼虫（根の中）	浸透移行性で、根から吸収され幼虫に効果。	株元に散布し、軽く土に混ぜる。植え付け時や幼虫発生時に。
ダイアジノン粒剤5	幼虫（根の中）	土壌中の幼虫に効果。長期間効果が持続。	株元に散布し、土に混ぜる。春～秋に使用可。

薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光下での散布は薬害の原因になります。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、輪番で使うと効果が長持ちします。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数を確認しましょう。



6 発生時期と防除カレンダー（目安）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成虫の発生	—	—	—	—	発生開始	最盛期	活動期終盤	→		—	—	—
防除のポイント	剪定・被害枝の除去 樹の点検				成虫の捕殺・薬剤散布 幼虫駆除の実施			被害部のチェック 樹勢回復の管理			剪定・清掃 越冬準備	

※地域や気温により前後します。こまめに観察して早めに対処しましょう。

防除のポイントまとめ

- ☑ 定期的に幹や枝を点検し、フラスや穴を早期発見する。
- ☑ 成虫は見つけ次第、捕殺する。
- ☑ フラスが出ている穴は、幼虫を駆除・薬剤注入で徹底防除。
- ☑ 被害枝は早めに剪定し、木の負担を減らす。
- ☑ 水やり・肥料管理を適切に行い、樹勢を強く保つ。
- ☑ 新しく購入した苗木は、持ち込む前に点検する。

チェックするポイント

- 幹や枝の割れ目や傷口に穴はないか？
- フラスが出ていないか？
- 葉がしおれていないか？
- 枝が枯れ込んでいないか？



8 発生を抑えるための予防対策

環境管理
風通しと日当たりを長くし、木を弱らせない。



傷口の保護
剪定後の切り口は癒合を塗って、産卵を防ぐ。



天敵の活用
クモや鳥、寄生蜂などが幼虫や卵を食べてくれる。



9 もし被害が大きい場合は…

幹の内部が大きく食害され、樹勢が回復しない場合は、思い切って伐採し、土の中の幼虫も取り除きましょう。



まとめ

カミキリムシは幼虫が木の中で長期間食害するため、早期発見と徹底防除が重要です。
「観察＋捕殺＋薬剤防除＋環境管理」の組み合わせで、レモンの苗木をしっかり守りましょう！

覚えておきたい一言メモ

「小さな穴や木くずを見つけたら要注意！」
早めの対処が、大切な苗木を守る一番の近道です。

レモンの苗木にカメムシがついた！詳細な説明と駆除方法

カメムシは葉や花、果実の汁を吸い、苗木の生育を弱らせます。早期発見と正しい対策で、元気なレモンを育てましょう！

カメムシは臭いにおいを出します！
刺激を与えると悪臭を放ちます。直接手でつかまず、ビニール手袋やティッシュを使いましょう。



1 カメムシの種類と特徴（レモンでよく見られるもの）

チャバネアオカメムシ
（体長 約12～14mm）



- 緑色でやや平たい体
- 触れると強い悪臭を放つ
- 主に春～秋に発生

ツヤアオカメムシ
（体長 約13～15mm）



- 光沢のある緑色
- 柑橘類でよく見られる
- 5～10月に多い

クサギカメムシ
（年1回発生）
（体長 約12～14mm）



- 茶褐色で細長い体
- 6～9月に発生が多い
- 葉の裏や果実に隠れる

被害の特徴

葉・花・若い果実の汁を吸います。吸われた部分は白くかすれたり、黒く変色し、生育不良や落果の原因になります。



白くかすれた斑点や、黒い変色が出る。

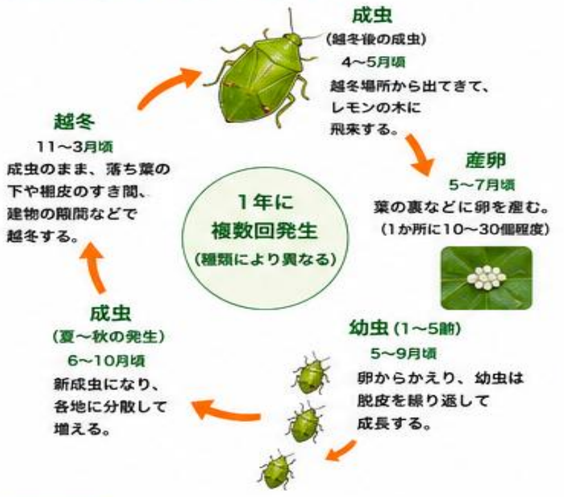


花がしおれたり、落花の原因になる。



果実に黒い斑点やへこみができ、品質が落ちる。

2 発生時期と生活サイクル



ポイント

- 気温が高いほど発生が多く、年間2～3回発生します。
- 朝夕の涼しい時間帯に活動が活発になります。

3 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 見つけ次第、手で捕殺する（最も確実で安全）

葉の表裏や花、果実にいる成虫や幼虫を見つけたら、ティッシュやビニール袋でつまんで駆除する。





ビニール袋に入れて密閉して処分する。

② 強い水流で洗い流す

幼虫は水に弱いので、ホースやシャワーで葉の表裏をしっかり洗い流す。定期的に行うと発生を抑えられる。



③ 薬剤散布（発生が多いとき）

成虫・幼虫ともに薬剤が有効。葉の表裏や、花・果実にもしっかりかかるように散布する。



④ 剪定・風通しの改善

混み合った枝を剪定し、風通しを良くしてカメムシの隠れ場所を減らす。



4 おすすめ薬剤と特徴

薬剤名	系統・特徴	効果の対象	使用の目安
ベニカX ファインスプレー 	速効性と持続性を兼ね備えた家庭園芸用殺虫剤。幅広い害虫に効果あり。	成虫・幼虫	7～10日に1回散布
オルトラン粒剤 	浸透移行性。根から吸収され、樹全体に行き渡り、害虫を防除。	幼虫に効果あり（予防効果）	植え付け時や春・秋に株元へ（定植後も可）
マラソン乳剤 	速効性があり、残効性もある殺虫剤。広範囲の害虫に効果。	成虫・幼虫	7～10日に1回散布

薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光下での散布は薬害の原因になります。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、輪番で使うと効果が長持ちします。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数を確認しましょう。



5 発生時期と防除カレンダー（目安）

月	1月	2月	3月	4月	6月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生状況	越冬		活動開始	発生が多い時期（成虫・幼虫）							越冬準備	
防除のポイント	越冬場所の除去や剪定で越冬虫を減らす		成虫の飛来をチェックし、見つけ次第駆除を開始		幼虫の発生に注意し、こまめに防除する		成虫の発生が続くので継続して防除				越冬前に成虫を減らしておく	

※地域や気温により前後します。こまめに観察して、早めに対処しましょう。

防除のポイントまとめ

- ☑ 葉の裏や花、果実をこまめに観察する。
- ☑ 成虫・幼虫を見つけたら、早めに駆除する。
- ☑ 水洗いと薬剤散布を組み合わせると効果的。
- ☑ 剪定で風通しを良くし、隠れ場所を減らす。
- ☑ 苗木を健全に育て、病害虫に強い木にする。

チェックするポイント

特に葉の裏、若い葉や花の周り、果実のくぼんだ部分をチェック！


葉の裏


花の周り


果実のくぼみ



7 定期的な観察・確認方法

週に1～2回、朝または夕方に観察しましょう。

- 葉の裏に複数の卵や幼虫がいないか？
- 成虫がじっとしていないか？
- 吸汁による被害の斑点や変色がないか？


卵（葉の裏）


幼虫


成虫

8 発生を抑えるためのその他の対策

環境管理

風通しを良くし、湿度を下げることでカメムシが定着しにくくなる。



天敵の活用（自然の力）

クモ類やヒメハナカメムシ類などがカメムシを捕食する。農薬の使いすぎに注意。


クモ


ヒメハナカメムシ類

忌避・補助対策

シルバーテープや防虫ネットで飛来を軽減する。





まとめ

カメムシは早期発見とこまめな駆除が大切です！
物理的防除（捕殺・水洗い）＋薬剤防除＋環境管理の組み合わせで、レモンの苗木を守り、健やかに育てましょう！



覚えておきたい一言メモ
「見つけたらすぐ対処！ためこまないことが一番の防除です」
小さな苗木ほど被害を受けやすいので、油断せずに観察しましょう。



レモンの苗木にミカンサビダニがついた！

詳細な説明と駆除方法

ミカンサビダニはとても小さく、肉眼では見えません！
葉のサビ症状が出たら、葉の裏や枝をよく観察しましょう。

ミカンサビダニは薬や枝にサビのような斑点をつくる小さなダニです。放っておくと光合成が弱まり、樹が衰弱します。早めの対策が大切です！

1 ミカンサビダニとは

ミカンサビダニは、カンキツ類（ミカン・レモン・オレンジなど）に寄生する細小のダニです。
葉や枝の表面に吸汁することで、サビのような斑点をつくります。



葉の表面にできたサビ状の斑点

2 被害の特徴

- 葉に黄褐色～赤褐色のサビ状の小さな斑点ができる
- 斑点が増えると葉が黄化し、落葉することもある
- 光合成が低下し、生育が悪くなる
- 枝の表面にもサビ状の斑点ができることがある


葉のサビ状の斑点

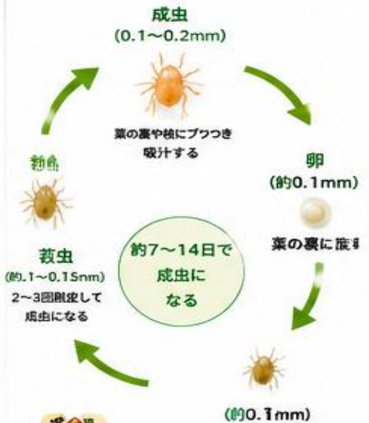

葉の裏（拡大）
葉の裏にミカンサビダニが寄生

3 発生の時期と場所

- 4月～10月に特に発生しやすい（梅雨～秋に多い）
- 乾燥した環境や、風通しの悪い場所で増える
- 葉の裏や枝の表面に寄生

4 生活サイクル

ミカンサビダニはとても小さく、卵から成虫まで短期間で成長します。



ポイント
- 気温が高く乾燥すると増えやすい
- 放っておくとどんどん増殖します

5 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 葉裏のチェック

葉の裏をよく観察し、サビ状の斑点やダニの存在を確認します。



② 葉や枝の洗浄（物理的防除）

ホースの水を弱めにして、葉の裏までしっかり洗い流します。
特に発生初期に効果的です。



③ 薬剤による防除（早めの散布が効果的）

ダニは繁殖が早いため、発生初期に薬剤散布するのが重要です。
裏表しっかりと、均一に散布します。



④ 環境改善・予防

- 風通しを良くし、乾燥を防ぐ（適度な水やり）
- 落葉や枯れ葉を取り除き、風通しを確保
- 不要な枝は剪定し、樹をすっきりさせる

6 おすすめの薬剤と使い方

薬剤名	特徴	使用方法・時期
ダニコール 	ミカンサビダニに効く乳剤タイプ。残効性はやや短い。	4～10月に10日に1回散布
マイトコーネフロアブル 	速効性があり、効果が長く持続。初期防除におすすめ。	4～10月に7～10日に1回散布
コテツフロアブル 	効果が安定しており、土壌や植物にもやさしい。	4～10月に7～10日に1回散布

薬剤使用の注意点
- ラベルの記載内容を必ず確認し、使用方法・希釈倍率・使用時期を守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や強い直射日光下での散布は薬害の原因になります。
- 風の強い日は周囲に飛散する恐れがあるため、使用は避けましょう。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日までに散布を行いましょう。



7 発生時期と防除カレンダー（目安）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	9月	10月	11月	12月
発生状況	ほとんど発生しない	発生しやすい（4月～10月）							ほとんど発生しない	
防除のポイント	冬期の剪定・清掃	初期発見・洗浄	薬剤散布（必要に応じて）				発生終期の確認		落葉の清掃	

※気温や天候により前後します。こまめに葉の裏をチェックしましょう。

防除のポイントまとめ

- ☑ 定期的に葉の裏を観察する
- ☑ 発生初期に洗浄や薬剤散布を行う
- ☑ 風通しを良くし、乾燥を防ぐ
- ☑ 不要な枝や枯れ葉を取り除く
- ☑ 肥料は適正に与え、樹勢を強く保つ

チェックするポイント

- 葉の裏に黄褐色～赤褐色の小さな斑点はないか？
- 葉の裏に小さな赤いダニのようなものがいないか？
- 葉が黄ばんだり、落ちていないか？
- 枝にサビ状の斑点がついていないか？



8 予防のためにできること

風通しを良くする


枝を剪定して、風通しを良くする

適度な水やり


乾燥に注意し、葉が乾きすぎないようにする

清潔な栽培環境


落ち葉や枯れ枝を取り除く

定期的な観察


早めの発見・早めの対策が大切

9 こんな症状が出たら要注意！


サビ状の斑点


葉の裏にダニ


枝にもサビ状の斑点



まとめ

ミカンサビダニは小さくても、放っておくとレモンの生育に大きな影響を与えます。
「早く見つけて、洗浄と薬剤でしっかり防除」することが、健康なレモン苗木を育てるポイントです！



覚えておきたい一言メモ
「葉の裏を見る」「早めに対策する」「樹を健康に保つ」
この3つを意識して、元気なレモンを育てましょう！



レモンの苗木にコナジラミがついた！ 詳しい特徴と駆除方法

コナジラミは葉の裏に寄生して樹液を吸い、苗を弱らせます。早期発見と正しい対策で、元気なレモンを育てましょう！

コナジラミとは？
体長 約1mmの小さな白い虫。
カメムシ目コナジラミ科
成虫は白い粉のように見え、
葉の裏に群生します。



1 見分け方（特徴と被害の症状）

葉の裏をチェック！

成虫（約1mm）
白い小さな蛾のような虫が、葉の裏に群がっている。



幼虫（約0.3mm）
透明～薄黄色の楕円形。葉にへばりついて動かない。



被害の症状
葉が黄変・萎縮し、すす病を併発しやすい。樹勢が弱る。



被害の特徴
- 成虫、幼虫ともに葉の裏に寄生し、樹液を吸うことで葉が黄変・しおれる。
- 排泄物にカビ（すす病）が発生し、光合成が妨げられる。
- 多発すると新芽の生育が止まり、苗が弱って枯れることもある。

2 発生のサイクル



ポイント
- 1回の世代が約3～4週間で、年間に何度も発生します。
- 乾燥した環境で増えやすく、風通しが悪いと多発します。

3 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 葉裏をしっかり洗い流す （最優先）

成虫や幼虫は水で落とせます。定期的に葉の裏を水で洗い流しましょう。



② 粘着トラップで成虫を捕獲

黄色の粘着板を苗の近くに吊るし、成虫の飛来を減らします。



③ 薬剤散布（幼虫に効果的）

幼虫（1齢～3齢）の時期に薬剤を散布すると高い効果があります。



④ 物理的な除去（葉の整理）

被害のひどい葉は取り除き、風通しを良くして発生を抑えます。



4 おすすめ薬剤と特徴

薬剤名	系統・特徴	効果の対象	使用の目安
ベニカX ファインスプレー 	浸透移行性と浸効性を併せ持つ。幅広い害虫に効果あり。	幼虫・成虫に効果あり	7～10日おきに散布
オルトラン粒剤 	浸透移行性。根から吸収され、成分が葉に移行して効果を発揮。	幼虫に効果あり（予防的効果）	植え付け時や春・秋に株元へ（定植後も可）
マラソン乳剤 	浸透移行性。効果の持続性がやや長い。	幼虫に効果あり	7～10日おきに散布

薬剤使用の注意点
- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や直射日光下での散布は薬害の原因になります。
- 風の強い日は避け、葉の裏までしっかり散布しましょう。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数も確認しましょう。



5 発生時期と防除カレンダー（目安）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生量	少ない			多い（特に4～10月）							少ない	
防除のポイント	越冬成虫の確認と卵塊の手入れが大切。		気温上昇とともに急増。予防的に対策開始！			幼虫の発生がピーク。1～2週間おきに防除を継続。			発生が落ち着いても油断せず、定期的に観察。		室内や風通しの悪い場所で越冬することも。	

※地域や気温により前後します。こまめに観察して早めに対処しましょう。

6 定期的な観察方法

週に1～2回、葉の裏を中心に観察しましょう。

チェックするポイント


白い虫が飛んでいないか？


葉の裏に卵や幼虫がないか？


葉が黄ばんでいないか？すす病が出ていないか？

早期発見が被害の拡大を防ぎます！

7 発生を抑えるためのその他の対策

環境管理
風通しを良くし、密集を避ける。乾燥しすぎず、過度な水やりを心がける。



天敵の活用（自然の力）
コナジラミタバコカスミカメなどの天敵昆虫を利用すると、減らす手助けになります。


コナバラミタバコカスミカメ（成虫）

忌避・補助対策
シルバーマルチや反射シートで飛来を抑える効果があります。



防除のポイントまとめ

- ☑ 葉の裏をこまめにチェックし、早期発見・早期対処する。
- ☑ 風通しと日当たりを良くして、乾燥しすぎない環境を保つ。
- ☑ 水洗い＋薬剤散布＋粘着トラップを組み合わせると効果的。
- ☑ 被害葉は取り除き、すす病の発生も予防する。
- ☑ 苗が弱らないよう、水やり・肥料管理も適切に行う。



まとめ

コナジラミは小さくても繁殖力が強く、放置すると苗が弱ってしまいます。
こまめな観察と、洗い流し・薬剤・環境管理の組み合わせで、レモンの苗木をしっかり守りましょう！

覚えておきたい一言メモ
「葉の裏をチェック！」が基本です。
小さな虫でも、早めの対策で大きな被害を防げます。



レモンの苗木にコガネムシがついた！詳細な説明と駆除方法

コガネムシの幼虫は土の中で根を食べ、成虫は葉や果実を食害します。早期発見と正しい対策で、苗木を守りましょう！

コガネムシは夜に活動します！
昼間は土の中や葉の裏に隠れています。
夕方〜夜の見回りが効果的です。

1 コガネムシの種類と特徴（レモンでよく見られるもの）

成虫（体長10〜20mm）
金属光沢のある緑色や茶褐色の甲虫。
葉や花、果実を食べる。


▲ヒメコガネ（体長10〜13mm）


▲コアオハナムグリ（体長12〜20mm）

幼虫（コガネムシの幼虫：通称コガネムシの"根切り虫"）
白くて太い幼虫。土の中でレモンの根を食べ、苗木を弱らせる。


▲体長20〜30mm

被害の特徴

成虫の被害
葉に不規則な食べ あと（レース状）、花や果実を食べる。



幼虫の被害
根が食い切られ、水切れのようにしおれる。苗がぐらつき、生育が悪くなる。



2 発生時期と生活サイクル



ポイント

- 成虫は夜行性。夕方〜夜に見回りを！
- 幼虫は土の中で根を食害するため、被害が進むと回復が難しい。
- 植え付け後1〜2年の苗木は特に注意が必要。

3 駆除方法（総合的な対策が効果的）

① 成虫の駆除（見つけ次第捕殺）

夕方〜夜にライトを使って見回り、見つけた成虫は捕まえて処分する。



② 幼虫の駆除（根の被害対策）

スコップで株元の土を掘り、幼虫を見つけて捕殺する。



見つけた幼虫はつぶすか、熱湯に入れて処分する。

③ 薬剤による防除（幼虫・成虫ともに有効）

発生時期に合わせて薬剤を散布・散布または土壌処理する。



④ 剪定・環境改善

混み合った枝や葉を間引き、風通しと日当たりを良くする。



4 おすすめの薬剤と使い方

薬剤名	対象	特徴	使用方法・時期
ベニカX ネクストスプレー	成虫	速効性があり、幅広い害虫に効果。残効性もある。	発生初期〜成虫発期に葉の表裏に散布。7〜10日に1回。
オルトラン粒剤	幼虫（根切り虫）	浸透移行性で根から吸収され、土の中の害虫に効果。	植え付け時や幼虫発生期に株元に散布し、軽く土に混ぜる。
ダイアジノン粒剤5	幼虫（根切り虫）	土壌中の幼虫に効果が高い。	株元に散布し、軽く土に混ぜる。植え付け時〜8月頃まで。

薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず守りましょう。
- 高温時（30℃以上）や強風時の散布は避けましょう。
- 同じ系統の薬剤の連用は避け、効果が落ちたら薬剤を切り替えましょう。
- 収穫予定がある場合は、収穫前日数を確認しましょう。

5 発生時期と防除カレンダー（目安）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成虫の発生	越冬（土の中など）			← 活動期（特に5〜10月）							越冬に入る	
幼虫の発生	—			—	卵〜ふ化			幼虫（根を食害）			さなぎ	
防除のポイント	成虫の早期発見と捕殺			成虫の防除を徹底	幼虫の防除（薬剤・土壌処理）を重点）を重点的に行う			幼虫の食害が続く時期。定期的に土を掘って確認			越冬前に土の中の幼虫を減らす	

※地域や気温により前後します。こまめに観察して早めに対処しましょう。

防除のポイントまとめ

- ☑ 夕方〜夜に見回り、成虫を捕殺する。
- ☑ 株元の土を定期的に確認し、幼虫を早期に駆除する。
- ☑ 薬剤は成虫・幼虫の発生時期に合わせて使用する。
- ☑ 水はけの良い用土と適切な水やりで、根を健全に保つ。
- ☑ 有機物（堆肥・腐葉土など）を土に混ぜ込みすぎない（幼虫を呼び寄せることがある）。
- ☑ 敷きわらやマルチング材の下もチェックする。

チェックするポイント

- 夕方、葉を食べる虫がいないか？
- 葉の縁がギザギザに食べられていないか？
- 株元の土を掘って、白い幼虫がいないか？
- 苗がぐらついたり、元気がない場合は根の被害を疑う。

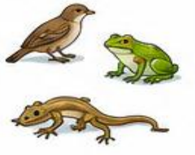


7 発生を抑えるためのその他の対策

環境管理
風通しと日当たりを良くし、過湿を避ける。



天敵の活用
カナヘビ、トカゲ、鳥、カエルなどはコガネムシの幼虫や成虫を食べてくれる。



物理的対策
株元に防虫ネットを敷き、成虫の産卵を防ぐ。



8 もし被害が大きい場合は…

根の食害が進み、苗がしおれて回復しない場合は、植え替えて根を整理し、新しい用土で育て直しましょう。



まとめ

コガネムシの成虫は葉や果実を、幼虫は根を食害します。
早期発見と「捕殺＋薬剤防除＋環境改善」で、レモンの苗木をしっかり守りましょう！

覚えておきたい一言メモ
「夜の見回りがカギ！成虫は捕って減らし、幼虫は土の中から退治することが大切です。」

コガネムシの幼虫による細根食害と葉の変化

～葉の異変は、根の異常のサインです～

高つきレモン
by 栗山

葉の変化の主な流れ

1 健康な状態



- 葉は濃い緑色で張りがある
- 新芽が伸びている
- 根から水分や養分を十分に吸収できている

2 葉の張りがなくなる



- 葉が垂れ下がる
- 葉柄や若い枝がしおれたように見える
- 水を与えても回復しにくいことがある

細根が減ると、土に水があっても十分に吸い上げられなくなります。

3 葉が黄色くなる



- 葉全体が薄い緑色になる
- 葉脈の周辺も黄化することがある
- 古い葉から黄色くなる場合もある

根の吸収能力が落ちると、養分不足に似た症状が現れます。

4 落葉・枝枯れが進む



- 葉が次々に落ちる
- 新芽の伸びが止まる
- 細い枝から枯れ込み、樹勢が大きく低下する

細根の食害が進み、残った根だけでは樹体を支えられなくなった状態が疑われます。

コガネムシの幼虫による根の食害と葉の症状



葉に現れる症状



葉の変化と根の食害の関係

コガネムシの幼虫が土の中で細根を食べる

↓

水分・養分を吸収する細根が減少

↓

葉に届く水分・養分が不足

↓

葉の症状が進行

葉のしおれ → 黄化 → 落葉 → 枝枯れ

⚠ 葉の変化から疑うサイン

- ☑ 水やりをしても葉がしおれたまま
- ☑ 葉が黄色くなり、次々と落ちる
- ☑ 新芽の成長が止まる
- ☑ 木を軽く揺すると、根が少なくぐらつく
- ☑ 土の中に白っぽい幼虫がいる
- ☑ 根を確認すると、細根が著しく減っている

※これらは過湿・水不足などでも起こるため、葉の症状だけではコガネムシの幼虫が原因とは断定できません。

確認と対処方法

1. 鉢土の表面から少しずつ土をよける。
2. 幼虫がいないか、細根が残っているかを調べる。
3. 幼虫が見つかったら取り除き、根の傷み具合を確認する。
4. 根が傷んでいる場合は、土を常に湿らせすぎないようにし、根の状態に合わせて水やりを調整する。

⚠ 根が弱っているときに、肥料を多く与えるのは避けましょう。

一番重要なのは、葉が黄色くなった時点で根の状態を確認することです。

根が大きく失われる前に対処できれば、木の回復につながります。

レモンの木にカミキリムシがついた！詳細な説明と駆除方法

レモンの木では、虫穴をしおらの樹勢で弱らは、早めの発見され複かたくと効対処な大切です。

早期発見・早期駆除が大切！
成虫はすぐに飛び立ち、見つけにくいです。
幹の穴やフラスを見つけたら、早めに
対処しましょう。

1 カミキリムシとは？

カミキリムシは、樹木の幹や太い枝に産卵し、
ふ化した幼虫が木の中を食べて成長する害虫です。
レモンの木では、主にゴマダラカミキリやクワカミキリ
などが発生します。



ゴマダラカミキリ
（体長2～3cm）



クワカミキリ
（体長2～4cm）

2 被害の症状

- 幹や枝に直径5～10mmの丸い穴があく
- 木くず（フラス）が出る
- 内部を食害され、樹勢が弱る
- 枝が枯れる、やがて木全体が弱り枯死する



成虫の脱出穴
（直径5～10mm）

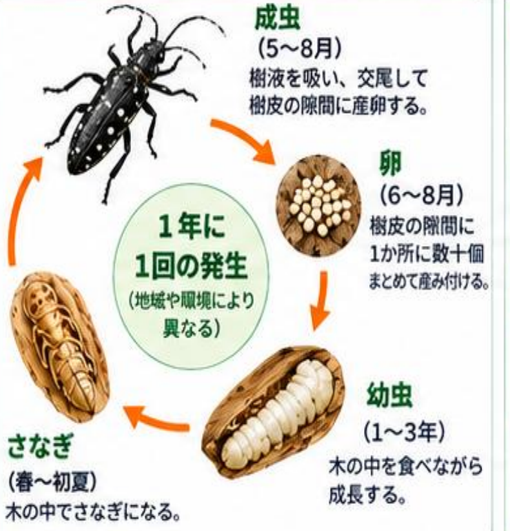


木くず（フラス）
（茶色～白い削りかす）



食害で枯れた枝

3 生活サイクル（例：ゴマダラカミキリ）



成虫
（5～8月）
樹液を吸い、交尾して
樹皮の隙間に産卵する。

卵
（6～8月）
樹皮の隙間に
1か所に数十個
まとめて産み付ける。

幼虫
（1～3年）
木の中を食べながら
成長する。

さなぎ
（春～初夏）
木の中でさなぎになる。

4 駆除方法（見つけたら早めに対処）

① 成虫の捕殺

木に止まっている成虫を
見つけたら、網や捕虫器で
捕まえ、殺虫します。



② 卵の除去

幹の表面の隙間にある卵は、
ヘラやナイフでそぎ取り、
処分します。



③ 幼虫の駆除

穴からフラスが出ている場合は、
針金で穴の中の幼虫を刺して駆除するか、
殺虫剤を注入します。



④ フラスの除去

樹皮の隙間や根元にたまった
フラスは、ブラシで取り除き、
周囲も清掃します。



5 おすすめの薬剤

薬剤名	特徴	使用方法・時期
スミチオン乳剤（有機リン系）	成虫・幼虫に効果が高く、浸透性がある。	5～8月に樹幹散布。幼虫駆除は穴に注入。
ベニカXネクストスプレー（殺虫・殺菌剤）	家庭用で使いやすく、成虫の防除に効果。	5～8月に樹幹に散布（発生初期に2～3回）。
トレボン乳剤（有機リン系）	成虫・幼虫に効果があり、持続性が高い。	5～8月に樹幹散布。幼虫駆除は穴に注入。







薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず確認する
- 周囲の農作物や環境への飛散に注意し、必要に応じて防護具を着用する

6 再発を防ぐための具体的な対策

薬剤処理後は、次の対策を組み合わせて再発を防ぎましょう。

① 防虫テープを巻く

成虫の産卵を防ぐため、幹や
主枝に防虫テープを巻きます。
（例：粘着性防虫テープ、
銀色反射テープなど）



巻く時期：4～10月
（成虫の発生期間）

② 株元のマルチング

成虫が産卵のために根元に
近づくのを防ぎ、フラスの
発見も容易になります。
（例：ウッドチップ・わら・
防草シート＋チップ）



年1回程度、交換して清潔に保つ

③ 定期的な点検

春～秋（5～10月）に、幹や枝、
株元を定期的に観察し、穴・フラス・
樹皮の傷みがないか確認します。



7 枯れ葉・病枝の駆除（正しいハサミの例）

枯れた枝や食害され弱った枝は、早めに剪定して処分します。
枝の付け根（枝の分かれ目の少し外側）で切ります。



剪定ばさみ
（バイパスタイプ）
生きた枝を切るのに適しています。

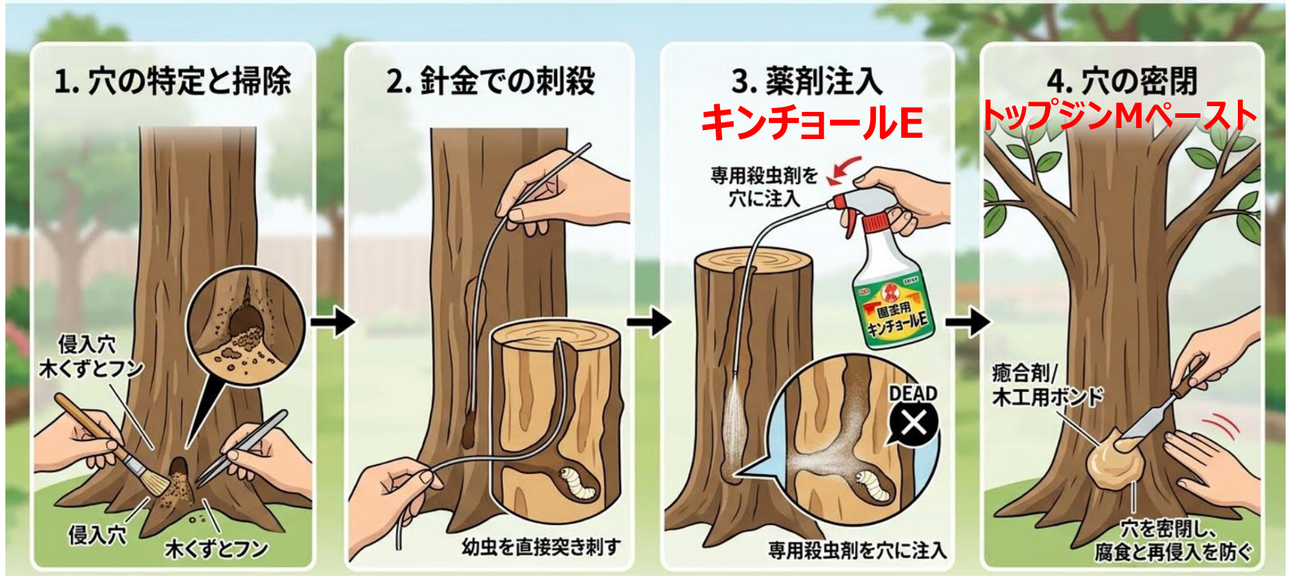


太い枝は
太枝切りばさみ
（枝切りばさみ）
直径2～3cm以上の
枝を切るのに適しています。

8 発生時期の目安



テッポウムシ（カミキリムシ幼虫）完全駆除の4ステップ



薬剤タイプ別の特徴まとめ

タイプ	主な目的	メリット	デメリット
①注入するタイプ（キンチョールE など）	木の中にいる幼虫の駆除	穴の奥まで確実に薬剤が届き、即効性がある	穴が見つかっていない木には使えない
② 塗布タイプ（ガットサイドS など）	株元への産卵・食入の予防	1回塗ると効果が長持ちし、一番被害が出やすい根元を守れる	ハケで1本ずつ塗るため、本数が多いと手間がかかる
③ 散布タイプ（スミチオン乳剤 など）	成虫の退治・全体の予防	広範囲の木や、高い枝までまとめて予防できる	雨が降ると効果が落ちるため、定期的な散布が必要

カミキリムシ　再発防止の6ステップ

高つきレモン
by 栗山

STEP 1: コーティング剤の塗布

トップジンMペースト
テッポウムシ予防樹脂フィルム

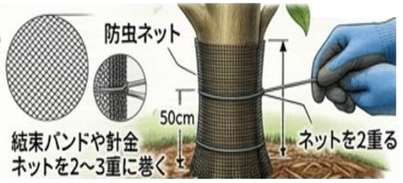


塗布タイプ（殺虫剤）
ガットサイドS

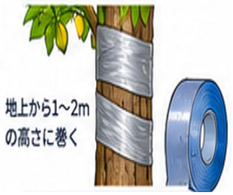
巻く時期：4〜10月
（成虫の発生期間）

STEP 2: 防虫ネットの巻き付け

地植え5年目、直径10cm
ネットを2〜3重に巻く



防虫テープを巻く
成虫の産卵を防ぐため、幹や主枝に防虫テープを巻きます。
（例：粘着性防虫テープ、銀色反射テープなど）



STEP 3: 風通しの改善

下枝とひこばえを剪定し、
風通しと日当たりを確保する



負担軽減（実の間引き）

全体の半分以上の実は
摘み取って、木を軽くする



STEP 4: 雑草のこまめな管理

株元を常にて清潔に保ち、
雑草をこまめに抜く



株元のマルチング
成虫が産卵のために根元に近づくのを防ぎ、フラスの発見も容易になります。
（例：ウッドチップ・わら・防草シート＋チップ）



STEP 5: 定期的な点検

春〜秋（5〜10月）に、幹や枝、株元を定期的に観察し、穴・フラス・樹皮の傷みがないか確認します。



見通しを良くする

地際の雑草を常に取る



STEP 6: 傾きの固定

頑丈な支柱で固定し、
幹に防虫ネットを巻く

